

おはなし会「こもれび」からの贈り物 NO. 2

6月「水無月」の“無”は“の”にあたる連体助詞ですので、“水の月”ということになります。

田植えが終わり、田んぼには水が張られています。畑では麦が色づきます。

梅雨入りすると雨の日が多くなりますが、6月21日には夏至を迎えます。

子どもたちのエネルギーがはじけだす季節かもしれません。

そこで、“やってみたくなる絵本”を選んでみました。

おはなし会「こもれび」担当 前田

“やってみたくなる絵本”

(赤ちゃんに)

・「くつつあるけ」(林明子 作・絵 福音館書店)

…靴をはいておもてに出るのは、赤ちゃんの大きな喜びでしょうね。この絵本を読んでもらったあとの赤ちゃんの顔を見てみたいものです。

・「たまごのあかちゃん」(神沢利子 作/柳生弦一郎 絵 福音館書店)

…たまごって、形も大きさもいろいろなものがあるのですね。「たまごのなかでかくれんぼしているあかちゃんはだあれ?でておいでよ」と呼びかけると次々に出てきます。にょろ ちょろ よちよち…とね!



画用紙で作って
遊ぶと楽しいよ!

(2歳くらいから)

・「しろくまちゃんのほっとけーき」(わかやまけん 作 こぐま社)

…ぽたん どろどろ ぴちぴち ぷつぷつ やけたかな? まだまだ… これを読んだら、だれだってホットケーキを作りたくなってしまいます。食べたくなくなってしまいます。

・「おにぎり」(平山英三 作/平山和子 絵 福音館書店)

…こんなにおいしそうなおにぎりを見たら、おにぎり作りに挑戦せずにはおれません。それも熱々のごはんでね!

・「やさいのおなか」(きうちかつ 作・絵 福音館書店)

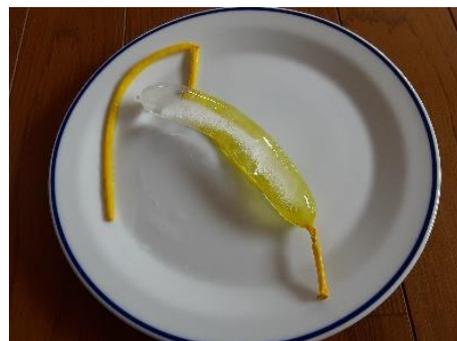
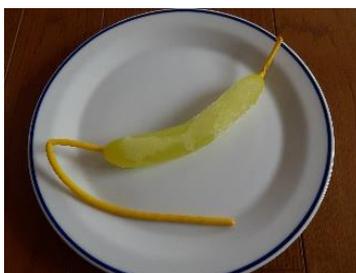
…やさいを真ん中ですばっと切った断面が美しい絵で次々と登場します。台所からやさいを持ってきて、切って中を見たくくなります。



・「あおいふうせん」(ミック・インクペン 作/角野栄子 小学館)

…ただの風船ではありません。しかけ絵本になっていて、ワクワクドキドキの展開をしています。読んだあと、そういえば、風船っていろいろな遊びができることを思い出すでしょう。

風船の中に水を入れて
凍らせてみるのもおもしろい



(3歳くらいから)

・「じゃぐちをあけると」(しんぐうすすむ 作・絵 福音館書店)

…じゃぐちから出てきた水だけでこんなに遊べるなんて、子どもって楽しいですね。コップやスプーンをお風呂場に持って行って…お風呂の時間が待ち遠しくなるでしょう。

・「まほうのコップ」(藤田千枝 原案/川島敏生 写真/長谷川摂子 文 福音館書店)

…コップに水を入れるだけでまほうのコップのできあがり！コップの後ろに置いたものがぐんにやりつぶれてしまったよ。さっそく、ためさずにはおれなくなります。



ブドウを置いたら



バナナを置いたら

・「びっくりまつぼっくり」(多田多恵子 作/堀川理万子 絵 福音館書店)

…松かさが湿度で開いたり閉じたりすることを利用して、まつぼっくりのピン詰めができます。すぐにでも、まつぼっくりを拾いに行きたくなってしまいます。



・「わゴムはどのくらいのびるかしら？」

(マイク・サーラー 作/ジェリー・ジョイナー 絵/岸田衿子 訳 ほるぷ出版)

…ある日、男の子は、わゴムがどのくらいのびるか、ためしてみることにしました。いろんな乗り物に乗ってどんどん行きます。子どもの想像力をかきたてる絵本です。

・「なつのいちにち」(はたこうしろう 作 偕成社)

…あの強い日ざし、草のにおい、あふれだす夏を感じられます。虫とりあみを持って思いっきり走ってクワガタムシをつかまえにいきたい～。

(4歳くらいから)

・「たんぽぽ」(平山和子 作・絵 福音館書店)

…たんぽぽの花は何百という花がより集まってできています。その一つ一つを細かく描いた絵を見ると、花をつんで一つ一つの花をひっぱり出さずにはおれなくなります。そして、その一つ一つの花の根元がふくらんで種となり、綿毛につれられて遠くに飛んでいくのだと知ったら、綿毛飛ばしがどんなに楽しくなることでしょう。



たんぽぽ

・「たねがとぶ」(甲斐信枝 作/森田竜義 監修 福音館書店)

…道ばたにさいた春の草の名前がわかります。どんな種をつけるのかもわかります。とてもきれいに描かれた種の絵を見ると、実際にさがして手に取ってみたいくなります。子どもたちは絶対に種にさわって種を飛ばしたくなるでしょう。



からすのえんどう
すずめのえんどう
しろつめくさ
なずな
のあざみ
おおばこ
あめりかふうろ
すいば

